侃斯達篤　二

g 19-2

富士川文庫
493.1
Ka-1
乙

F 2
カー102

493.1
Ka-1
2

No.1590

旧 9 19-2

慶應義塾大学医学情報センター・昭和47年7月12日

富士川文庫

2811

慶應義塾大學醫學部圖書

侃斯達篤卷之二

越州　坪井良信良譯

其二　血液循環諸病

血液欝積

彼此ノ部ノ脈管中、血液欝積スルナリ、人或ハ血液流通ヲ妨クルニ由テ發スル者ヲ血液欝積ト稱シ、内外刺戟ニ由テ發スルヲ血液輻進ト稱シ、以テ之ヲ區別ス、然レトモ血液輻進ノ字ハ、疑義アルカ故ニ、之ヲ廢シ、唯血液欝

積ノ字ヲ用フルヲ可トス、但シ鬱積ト焮衝トハ自ラ別アリ、焮衝ハ必ス局部滋養失常ヲ兼ヌ、血液鬱積ハ此ノ如キ滋養失常ノ原基ヲ輸送スル者ニテ、焮衝ノ因ト云フヘシ、必ス之ニ前行ス、故ニ決シテ之ト混スルヿ勿レ、血液鬱積シテ組織ノ滋養ヲ變スルニ至レハ、是レ既ニ鬱積ニ非ス、焮衝ニ轉スル者ナリ、

症候

一部ノ細脈管中、血液鬱積スレハ、其部赤色、腫起ス、腫起スルト、鬱積スル血液ノ刺戟トニ由テ、病

性感動ヲ發ス、疼痛是ナリ、其部ノ機能ハ或ハ全タカラス、或ハ廢止ス、近部動脈ノ動ハ大ニ〆實ナリ、是レ血液鬱積シテ脈管ヲ流通スルノ量多キヲ以テ、脈管ノ中徑廣大トナルニ由ル所ナリ、局部機能障害ノ抵抗ニテ、脈管及ヒ神經系ノ中點ニ變動ヲ起シ、他部ニ交感諸症ヲ發ス、血液鬱積スル者、出血或ハ分泌増多スルニ由テ、消散スルアリ、又焮衝ニ陥ルアリ、

血液鬱積ノ發症ト、焮衝ノ發症トハ、辨別シ能ハサルヿ多シ、夫レ尋常焮衝ノ確兆トスル、赤

色、腫起、炎熱、疼痛ハ、鬱積ニ於テモ亦之ヲ發スレハナリ、但レ兼テ患部滋養常ヲ變スルハ、即テ焮衝ノ必見固有症ナリ、

内部器械ノ血液鬱積ト、焮衝トヲ鑒別スルハ最モ難キ所ナリ、唯其諸症ノ急速ナルヲ以テ纔ニ之ヲ察スルノミ、又血液鬱積ニ由テ發スル所ノ症候ト、相反スルノ因、即テ乏血ニ由テ發スル所ノ症候ト、相同シキ者アリ、例之譫妄、耳鳴、痙攣等ハ、脳ノ多血ニモ、乏血ニモ、之ヲ發ス、此症ノ辨別ハ、後ノ脳病条ニ於テ詳説スヘレ、

原因

鬱積ノ原因、一静脈血ノ還流ヲ支フル器械性ノ者、二脈管ノ一部若クハ全部麻痺、三内外因ニ由ル局部刺戟ノ別アリ、

其一器械性ノ者、静脈血ノ心藏ニ還流スルヲ妨クル所以ノ者ヲ云フ、此障害ヲ為ス者、常ニ必ス器械性ナルニ非ス、何トナレハ静脈大幹ノ閉塞、又壓迫ニ由リ、又血液ヲ流通セシムルノ機能麻痺スルニ由リ、又脈管彈力ヲ失スルニ由リ、又

心病、肺病アルニ由テ、静脈血ノ循環ヲ妨ケ、以テ血液鬱積ヲ生スルヿアレハナリ、又器械性血液鬱積、筋ノ運動ヲ失スルニ由ル者アリ、抑モ筋ノ壓迫スルハ、静脈血流通ヲ催進スル所アリ、四肢ノ如シ、又血液自家ノ重力ニ由テ、鬱積ヲ生スルヿアリ血液ヲ循環セシムル所以ノ力減衰シテ、血液ノ重力ヲ制スルヿ能ハサル者是ナリ、例之高年ノ人、又慢性ノ疾病ニ由テ、脱力スル者、身體ノ低所、背ノ皮膚、肺、腦、四肢ニ血液鬱積ス、則チ世稱スル所ノ虚性焮衝是ナリ、職業ノ為ニ止ムヿヲ得ス〆、強テ兩脚ヲ下垂シ、血液ノ下部ニ流通スルヿ容易ナル者、又攝生、行狀、固形部ヲ衰弱セシムル者、織工ノ如キハ、下肢血液鬱積、静脈膨脹、腫瘍、及ヒ慢性難治ノ腫瘍ヲ生シ易シ、

所謂虚性焮衝、一變シテ生活機能ノ區域ヲ脱シ、屍體鬱積トナルアリ、是レ解剖家ノ着目スヘキ要件ナリ、屍體鬱積ハ、唯其重力ノ法則ニ隨テ、身體ノ低下ノ部ニ鬱積スル者ナレハ、體ノ位置ヲ轉スレハ其部亦變スルナリ、輕重大小ハ、大ニ血質ニ由ル、故ニ死後血液溶崩稀薄ナル者、例之失

苟兒陪苦、腐敗病、又炭蒸氣ニ觸テ窒死スル者等ニ於テハ、其症盛ナリ、故ニ解剖ノ際、妄ニ之ヲ見テ以テ單ニ疾病ノ續症ナリト認ルコ勿レ、又組織彈力ヲ脱失スレハ、滲出變シテ漏泄トナル、是ニ由テ啻ニ沕乙ノミナラス、血中ノ色分モ脈管ノ針眼ヨリ漏泄シテ、沕乙膜、又組織中、又實質中、ニ瀦留シ、以テ死後汚血斑、蜂巣體内血液溢出等ヲ為スナリ、

屍體血液鬱積ノ最モ多ク發スルノ部ハ、〔一〕外部皮膚、背、臀、腓腸等ナリ、赤色帯青、或ハ汚色ノ

斑ヲ為ス、之ヲ死斑ト名ク、〔二〕肺藏後面下部、肋骨ニ接スル所、〔三〕腦膜ノ頭葢骨隙ノ後面、〔四〕胃ノ低面、最モ垂下スル部、腸ノ最低ノ部、腸閒膜脊椎ニ接スルノ部、〔五〕肝藏ノ下面、是レ腸ヨリ升騰スルノ汚氣ニ由テ、暗色或ハ緑色トナル、

屍狀敗血、又赤色ノ血液鬱積スルノ部ハ、腦膜、胸膜、腹膜、心嚢ナリ、

器械性血液鬱積ヲ生シ易キ部ハ、〔一〕其輪送スルノ脈管、閉塞セル靜脈ニ吻接スル部、〔二〕多血ノ部、例之肺、肝、脾、腸、面部、〔三〕脈管ノ衣膜弛緩スルノ部、

脾血液鬱積スルノ部ハ、先ツ血液瀦留シテ循環セス、漸次ニ堆積シテ色ヲ變シ、腫起ス、血質固ヨリ變スルカ故ニ、其部忽チ暗色トナリ、血ノ水分速カニ分拆シ、管外ニ滲出シ、鬱畜シテ腫瘍狀トナル、腫瘍ト水腫ハ、血液鬱積ノ續症ナリ、

水分ノミ管外ニ滲出スルニ非ス、脈管破裂スルニ至レハ、清血漏泄シ、出血ス、是レ血行障害甚シキ歟、又ハ其部ノ脈管弛緩スルニ由テ生ス、肺藏、直腸靜脈等ニ於テス、

人工ニテ器械性血液鬱積ヲ生スレハ、四肢ヲ綁紮スルカ如シ、内藏出血吐血、咯血、ヲ發ス、綁紮ノ主用ハ、四肢ニ血液流通ヲ增多スルニ非ス、却テ血液ノ心藏ニ還流スルヲ支障スルナリ、器械性緊紮法ニテ動脈ヲ壓迫スレハ、相反スルノ症ヲ發ス、

血液浸潤スルノ部ハ、其固性ヲ失ス、故ニ器械性血液鬱積スルノ部ハ、健康ノ部ヨリハ軟脆ニシテ破裂シ易シ、夫ノ軟解ト稱スル者ハ、器械性血液鬱積ノ續症ノミ、軟解ハ其健康時ニ於テ組織柔

軟ナル部、肺、腦、脾等ニ於テ最モ顯著ナリ、

器械性血液鬱積ノ例、

一 縊死、窒息、喘息發作、卒仆ニ由テ、面色汚穢、眼目腫起、死後發斑、肺、心ノ右室、靜脈系血液充盈、心ノ左室、動脈空虚等、

二 門脈、及ヒ下行靜脈閉塞壓迫スルニ由テ、腸、腸閒膜血液鬱積、或ハ出血ス、

三 妊娠ニ由ル者、

痔脈腫起、足部靜脈、膨脹、腫瘍、

四 心藏器械病ニ由ル者、

腸及ヒ四肢血液鬱積、

五 肺藏器械病、肺勞ニ由ル者、

痔脈腫起、

六 緊搾ニ由ル者、

膝紐、袴服、風領ニ由テ眼焮衝ヲ發ス、

其二 麻痺性ノ者、多血部ノ脈管神經直チニ麻痺シ、或ハ全身ノ虚脱病ニ由テ、心藏、動脈、血液ヲ細脈管中ニ輸送シ、遂ニ靜脈ニ入ルトノ機能ヲ失シ、脈管虚性血液鬱積ヲ生スレハ、血液細管ニ鬱畜シ、所謂虚性焮衝トナル、鬱積スルノ血液漸

次ニ變質シ、暗色、褐色トナリ、凝結シ、又遂ニ分拆シテ、周圍ノ部ヲ破潰ス、

患部紫色、或ハ暗赤色、腫起スルノ部柔軟ニシ牢實ナラス、温度減少シ、或ハ増進シテ灼クカ如ク、疼痛微ミ、或ハ全ク疼痛ナシ、機能ヲ失シテ麻痺ス、抵抗亦衰弱ヲ兆ス、

此ノ如クニメ持久シ、或ハ頻發スレハ、脈管弛緩シ、延長シ、收縮力麻痺シ、血液ニ抵抗スルノ機能ヲ失ス、是レ肺臟、諸腺、粘液膜ノ急性血液欝積ノ者、經久スレハ虛性欝積ニ陷ル所以ナリ、古人所謂ル焮衝慢性期是ナリ、老年ニ及テ、脈管ノ機能、即チ血液運輸ノ力衰憊シ、兼テ心藏輸出ノ力減スレハ、心藏ヲ遠距スルノ部、手、足、鼻尖、腦等ニ於テ、一分ハ器械性、一分ハ麻痺性ノ血液欝積ヲ生ス、血液大脈管中ニ凝結シ、遂ニ惡性腫瘍、寒壞疽、軟解ヲ生ス、

其三刺戟性血液欝積、是レ内外刺戟ノ直チニ其部ニ感シ、或ハ他部ヨリ波及スルニ由ル者ナリ、

急性血液欝積、皆必シモ疾病ニ屬スルニ非ス、

健康體ニモ之ヲ發スル者アリ、其疾病ニ屬スル者ハ、其部ノ鬱積非常ニ盛ナルナリ、天癸始テ至ルノ時ニ於テ、陰部ニ血液增多シ、生齒ノ時齒齦ニ鬱積シ、受胎ノ時ニ卵巣ニ於テシ、妊娠、經行間、子宮ニ鬱積スルカ如キ、一時ノ血液鬱積、内外刺戟ニ由テ發スル者、皆健康ニ屬ス、情意感動〔恥羞、憤怒等〕ニ由テ、面部紅ヲ潮シ、又寒暖變移ニ由ル者、又情慾發動、交接ニ由テ、陰莖勃起スル等、皆然リ、

急性血液鬱積ヲ生スル所以ノ理如何ハ、病理學家ノ從來講究スル所ナリ、是レ焮衝ヲ生スルノ原基ニシテ、之ヲ治スル所以モ、亦之ヲ目的トスレハナリ、古來試驗スル所、其說一定ナラス、或ハ相反スル者アリ、今其要ナル者ヲ揭クヘシ、

急性血液鬱積、及ヒ其續症ヲ說クニ方テ、親シク試驗シ、顯微鏡ニテ視ル所ヲ記ス、獸類ノ透明ナル組織、〔兎耳、蝦蟆ノ浮泳膜、又舌等〕ヲ器械性損傷、含窒性刺戟、又高度ノ寒熱ニテ、焮衝ヲ起サシムレハ、其部ノ細動脈狭窄トナリ、心臟ノ血液ヲ輸送スルノ力、及ハサルカ故ニ、細管及ヒ靜脈ノ血

行遅滞シ、徐〻ニ進行シ、血體各〻相附着シ、遂ニ欝畜シテ、細脈管ヲ延張シ、脈管延張スルヿ愈多ケレハ、血行愈遅滞シ、彼此徘徊シテ、遂ニ瀦留シ、是ニ於テ急性血液欝積變シテ瀦留トナリ、續症ヲ發ス、

古人普ク謂ク、細脈管固ヨリ縮張ノ機ヲ有ス、是レ急性血液欝積ヲ起スノ原ナリト、此説ハビデル氏亦唱フル所ナレ氏、ワルトンヨ子ス氏、ブリユクケ氏實驗ニ據テ其非ヲ知ル、細脈管ニハ收縮セシムルノ纎維ヲ具セサルカ故ニ、自家ノ機能ニテ縮張スルト云フハ信ス可ラス、近時ブリユク氏驗スル所左ノ如シ、其枝末ニ於テ、血液欝積スルノ一動脈ヲ、精密ニ驗スルニ、幹ハ收縮シテ狹窄トナリ、枝末ハ血液欝積シテ大ニ膨脹ス、欝積盛ナル者ニ於テハ、四五時間ハ持久スルノ狀態ナリ、動脈狹窄トナルカ故ニ、流通スルノ血液ヲ障妨シ、血液ノ力、及ヒ量減少シ、而メ細脈管ニ入ルニ及テハ、比例スレハ大ナルカ故ニ、血行遅徐トナル、動脈枝ノ末梢、細脈管、靜脈ニハ、收縮スルノ纎維ナキカ故ニ、狹窄トナルヿナク、其容

常度ヨリ減縮スルヿナシ、且ツ輸送ノ力減シ、血行遅除トナルニ由テ、血液鬱畜スルヿ愈盛ナリ、血體ハ固ヨリ他液ヨリハ重キカ故ニ、運行最モ遅除ニノ、彼此徘徊シテ遂ニ沉澱ス、上ニ記スル所ノ動脈收縮ハ、久シク保持セスノ、速カニ弛縱シ、隨テ血行流利シテ、疾速トナル、（可疑）是ニ於テ細管及ヒ靜脈中、血液鬱積スル者、疎通ヲ得テ消散スルナリ、或ハ其障害物ヲ排除シ能ハサルモ、之ヲ增加スルヿナシ、何トナレハ血液能ク細管ヲ流通スルカ故ニ、自ラ閉塞ヲ開クニ足ルナリ」、

血液鬱積、及ヒ其續症ノ顯微鏡ニテ視ル所ノ發症ヲ説クニ、數般ノ考案アリ、古人多ク謂ク、焮衝ハ病機抵抗ニテ、血液ト神經機能トノ平均ヲ失フニ出ツト、然ルニ近世ニ及テ、ヘンレ氏亦此説ヲ唱フ、又引力ヲ以テ之ヲ説ク者アリ、（ホーゲル氏、アリソン氏、ヨ子ス氏、ヘン子ット氏、等）ヘンレ氏亦曰ク、焮衝性血液鬱積ハ、細脈管ノ神經麻痺スルニ由テ、脈管延張シ、血液瀦留スルナリト、但シ上ニ記スルノ顯微鏡ニテ視ル所ニテハ、脈管延張セス、却テ收縮スル者ナレハ、脈管ノ神經麻

痱ニテハ說クヿヲ得ス、又引力家ノ說ニ曰ク、脈管内面ト、血液トノ引力ニテ、血行漸ク遲徐トナリ、遂ニ全ク瀦留ストワルトンヨ子ス氏ハ、此二說ヲ併セ取ントス、但シ諸般ノ說ヲ詳記シ、之ヲ辨駁スルハ、方今ノ急務ニアラス、故ニ各其本書ニ就テ詳說ヲ見ルヘシ、今之ヲ揭ケス、次テ血液欝積ノ續症、所謂焮衝ヲ說クヘシ、

焮衝

上ニ記スルカ如ク、延張セル細脈管中、血液欝積スル者、遂ニ焮衝トナルヿアリ、此時赤色ノ血體ハ、進行遲徐トナリ、愈〻管中ニ欝積シ、相密接シテ、虛隙ヲ失シ、或ハ血行ニ列トナルヿアリ、是ニ於テ細管中、全ク赤色ノ血體ヲ充盈シ、稀液少ナク、血行愈〻遲滯シ、血體遂ニ柱狀ヲナシ、恰モ貨幣ヲ重疊スルカ如ク、暫ク徘徊往來シテ、遂ニ全ク休止ス、且ツ全管充盈スルカ故ニ、不整球狀ノ塊トナリ、各個ノ區域ヲ別ツヿナシ、

此諸症ノ外、更ニ焮衝ニ必見ノ症アリ、滲出是ナリ、延張セル細管中ニ、多量ノ血液充盈シテ、之ヲ運輸スル能ハス、遂ニ周圍ノ組織内ニ滲出ス、瀦留セル血體ノ色分ハ、溶解シテ、沕乙液ニ混シ、管外ニ滲出ス、細管彼此ノ部破裂シ、其液組織内ニ滲出シ、脈管ト組織ト相混同シテ、分界ヲ失スニ至ル、

ヘンレ氏曰ク、細管中血體密接スルト、瀦留スルトハ、滲出之カ因タリ、何トナレハ、血液水分ヲ失フカ故ニ、稠厚トナル、纖維質ト、卵白ト、増多スレハナリ、ヨ子ス氏ハ、血液ノ稠厚ナルヲ鬱積ノ最原ナリトス、

今此諸症ヲ解剖學理ニテ論スレハ、夫レ焮衝ハ、血液鬱積シ、次テ其部ノ滋養ヲ變スルナリ、故ニ之ヲ要スルニ、滋養常ヲ變スル者ナリ、滲出ハ滋養液ノ量ト質トヲ變スルナリ、ヒルシヨウ氏滋養ノ機ヲ失スルナリ、故ニ滋養ノ機ト、焮衝ノ機トハ、固ヨリ判然タル區域アルニ非ス、能ク相轉移スルナリ、夫ノ焮衝ノ解剖性變化、殊ニ滲出變性ハ後ニ詳説スヘケレハ、今先ツ上ニ記スル

諸症ヲ發スル所以ノ理ヲ說クヘシ、

焮衝症候

所謂ル焮衝四症、赤色、炎熱、腫起、疼痛ハ、唯外部ノ焮衝、目視、手觸レテ之ヲ知ルヘキ者ニ於テ云フノミ、但シ以テ焮衝ノ狀態ヲ察スルニ足ル、夫レ發泡膏ヲ貼シテ、發スル部ノ焮衝ハ、其始單純ノ血液鬱積ナレ𪜈漸次ニ滲出液ヲ生シ、表皮隆起スルニ至ル、今此四症ヲ各別ニ詳說スヘシ、

一赤色 組織赤色トナルハ、細管中ニ血液輻進スルヿ、增多ナルニ由リ、或ハ其瀦留シ、鬱積スルニ由リ、或ハ沕乙液ノ血ヲ混シテ赤色トナル者、管外ニ滲出シ、又ハ脈管破裂シテ清血組織中ニ漏泄スルニ由リ、或ハ血液脈管ノ新ニ發生スルニ由ル、是レ煦覆セル鳥卵ノ膜ニ於テ見ル所ノ如シ、故ニ赤色ニ鬱積性、滲出性、漏泄性、成形性ノ別アリ、而ノ焮衝赤色ヲ發スルニ數因アリテ、多クハ相合併スル者ナリ、

屍體ヲ解剖シテ、組織ノ焮衝赤色ヲ撿查スルヿ極テ難シ、其非常ニ赤色ナル者、一ハ血液ノ變性スルニ由テ發スルアリ、又生活時間發セシ所ノ

赤色、屍體ニテハ忽チ消散シテ、痕跡ヲ遺サヽレハナリ、例之咽喉焮衝ノ者、其生活時間ハ、血液欝積盛ナリシニ、死後ハ喉頭ノ粘液膜、全ク白色トナリ、又羅斯、猩紅疹ノ皮膚赤色ナル者、死後直チニ消滅スル類ナリ、

焮衝赤色ヲ解剖シテ撿査スルニ、數種ノ別アリ、

一　分枝ノ者是レ殊ニ大脈管ニ於テ然リ、故ニ唯前兆ナル者カ、或ハ焮衝ノ周圍ニ生ス、

二　網狀ノ者是レ閉塞セル細脈管相錯綜シテ網狀ヲナス者ニテ、膜質ノ部ニ於テ之ヲ見ル、

三　點狀ノ者細小ニシテ、各〻不同ノ斑點簇發ス、脳、粘液腺、假膜、沕乙膜ニ生ス、脈管ノ新生スル亦此ノ如ク點狀ヲナシ、漸ク線狀ノ新血道ヲ生スルナリ、

四　同等赤色ノ者是レ血點、及ヒ脈管集合スルニ由リ、或ハ脈管破裂スルニ由ル者ナリ、組織弛緩ノ部、例之粘液膜ノ如キニ生シ易シ、

此ノ如ク赤色ニ數種アレモ、相轉移シ、分枝ノ者網狀トナリ、網狀ノ者同等ニ轉ス、而シテ其相轉スルハ、病勢進歩スルナリ、又其患部ノ差異アルニ

由ル、腸ノ粘液膜、腦ニ於テハ點狀赤色ヲ發スルヲ常トス、眼膜ニハ網狀ヲ生ス、赤色ノ深淺、亦數樣ノ別アリ、淡赤色ヨリ漸ク進テ各般ノ度ヲ經テ、遂ニ褐色、帶青色ニ至ル、脈管或ハ其部ノ組織中ニ、血液久シク瀦留スレハ、其色ヲ變シ、暗或ハ褐トナル、但シ血ノ性質、脈管ノ形狀、又其部固有ノ色、相異ナルカ故ニ、亦數般ノ別アリ、外部ニ發スル赤色ハ、其初起ニハ指ニテ之ヲ壓ゼハ消褪ス、又焮衝スルヿ愈久シケレハ、消散スルノ後、黃色或ハ帶褐黃ノ斑ヲ遺シ易シ、是レ其組織中ニ漏泄セル色分ニ由ルナリ、

二　腫起　是レ亦焮衝ノ一傍症ト云ヘキノミ、必見ノ症ニ非ス、醫者宜シク速カニ腫起スルト、兼テ抵抗充起ノ兆ヲ見ハ、則チ之ヲ徒ラニ看過スルヿ勿レ、腹部諸器ノ焮衝ハ、腫起ノ部大ナルヲ以テ之ニ觸レ、之ヲ按シ、以テ知ルヘシ、他ノ内部諸器ニ於テハ、疑似決シ難シ、唯近傍部ノ機能障害アルヲ以テ察スルノミ、

腫起スルノ因ハ、赤色ノ因ノ如ク、一樣ナラス、或ハ細管ノ充盈シ、膨脹スルニ由リ、或ハ組織ノ蜂

巢體中、又ハ空隙ニ、汎乙液滲出スルニ由リ、或ハ血液滲出、漏泄、欝滯スルニ由リ或ハ之カ為ニ、其組織膨脹、肥厚トナルニ由ル、此諸症モ、亦相併セ來ルナリ、

其部ノ硬軟、血液ノ多寡、各別アルカ故ニ、腫起スルヿ亦一様ナラス、從來柔軟ニシテ多血ノ部、粘液膜、脾、皮膚ハ、腫起シ易ク、血液滲出シ易シ、此部ハ脈管膨脹スルノ性アリテ、血液ヲ吸收スルヿ盛ナルカ故ニ、腫起スルヿ盛ナリ、之ニ反シテ、腱質、筋質、軟骨質ノ部ハ、堅硬ニシテ乏血ナルカ故ニ、妄ニ腫起セス、患者死スレハ、血液ノ欝積スル者消散シ、細管空虚トナルヲ以テ焮衝ノ初期ニハ、死後速カニ消散スルノ理、又後期ニ於テモ、萎縮スルノ理ヲ知ルヘシ、患部ハ硬軟亦一様ナラス、初期ニハ多クハ硬固ニメ、抵抗盛ニ牽張ス、第二期ニ於テ血液滲出スレハ、其部漸ク柔軟トナリ、泥ノ如ク之ヲ壓スニ牽張セス、而ノ滲出ノ液凝固セサレハ、患部軟解シ、脆弱トナリ、硬骨ハ軟骨ノ如ク、角膜ハ軟解シ、膜質ハ近接スルノ部ト離解シ、腦質、肺、

脾等ハ化シテ泥ノ如シ、

焮衝スル部ハ、物質増多スルカ故ニ、必ス其重量ヲ増加ス、随テ其異重ノ増加スルヿ亦知ルヘシ、ハハスセ氏曰ク、肺臓ハ健康時ニハ七兩、至十兩ノ重アルニ、焮衝スレハ一斤半乃至二斤重トナル、故ニ肺ノ異重ヲ百トスレハ、但シ健康人ノ肺ノ異重ヲ秤量スルハ能ハサル所ナリ、焮衝スレハ百十五、百十九トナルナリ、又渾濁ナル血液竄透スルカ故ニ、膜質透明ノ部、其玲瓏ヲ失ス、汐乙膜、角膜、水晶液帯ノ如シ、

又焮衝ニ由テ生スル所ノ十全ノ變性ト稱スル者ハ、組織ノ溶解スルニテ、其部ノ全質變シテ、同質ノ物トナリ、各ミノ組織潰爛シテ、形質ヲ失フニ至ル者ナリ、

三 疼痛　焮衝ニ發スル疼痛ハ、諸般ノ疼痛ノ如ク、神經機能ヲ失スルノ一症ナリ、知覺神經末梢ヨリ、感覺ノ中點ナル腦ニ傳搬スルニ由ル、而ノ其疼痛 焮衝ニ兼發スル非常ノ感覺ト云フヲ勝レリトス、蓋シ必シモ疼痛アルニ非サレハナリ、焮衝ノ各期ニ發見スレトモ、疼痛ナキ者亦之アリ、

但シ赤色、腫起等アリテ、自ラ焮衝タルヿヲ知ルヘシ、

疼痛ハ興奮ノ亢盛スルナリ、知覺神經ノ暴動ト云フヘシ、故ニ知覺神經患害ヲ蒙ムルトキニノミ之ヲ發ス、此神經固ヨリ普ク全身ニ蔓延スルカ故ニ、疼痛ハ多ク發見スルノ症ナリ其部ノ神經機能、知覺ニ非サル一種ノ感覺ヲ具スルトキハ、隨テ疼痛ニ非サル、一異ノ焮衝症ヲ發ス、例之目ハ羞明、耳ハ聽力敏捷トナルカ如シ、故ニ疼痛ナキモ焮衝生スル者タルヲ知ルヘシ、殊ニ他識ノ症ヲ發セス、唯機能ノ失宜ヲ以テ察スヘキノ部ニ於テ然リ、目ノ網膜、内耳、腦ノ如キ是ナリ、

組織中非常ノ狀態アレハ、必ス神經ニ於テモ、非常ノ運營ヲ兼發ス、而ノ疼痛ハ諸般ノ原因ヨリ發スル者ナレハ、焮衝ノ初起ハ、之ヲ決スルヿ難シ、血液多量ニ鬱積シ、溫度大ニ增加シ、脈管ノ鼓動熾ナルニ由テ、敏捷ナル神經末稍、之ニ感シ、炎熱灼クカ如ク、刺スカ如ク、刺衝性、鼓動性ノ疼痛ヲ發ス、又器械性ニテ神經末稍

ヲ障害スルヿアリ、欝積スル血液ノ壓迫ト、重力トニ由リ、近傍部ノ牽張スルニ由ル、患部固ヨリ牽張シテ、弛緩セサル者ハ、疼痛愈甚タシ、故ニ腱質ノ部ハ、疼痛極テ甚タシク、又之ヲ刺開スレハ忽チ輕快ヲ得ルナリ、又焮衝ノ初期、若クハ經過中ニ於テ、其部ニ流通シ、或ハ瀦留スルノ血液、又管外ニ滲出シ、或ハ漏泄スル者、性質ヲ變シテ、舍密法ニテ神經ヲ刺戟スルヿアリ、

焮衝疼痛ノ度、輕重、大小一ナラス、或ハ劇甚ニメ錐鑽スルカ如ク、或ハ輕微ニメ壓重ヲ覺エ、少シモ疼痛ナキカ如シ、又疼痛ニ兼テ鼓動ヲ感スルアリ、焮衝ノ近傍部ニ在ル動脈ノ搏動ニ由テ起ル所ナリ、此際患者、閉塞シ或ハ滲出液ニ由テ壓迫セル細脈管ニ於テ、動脈血ノ流通ヲ明カニ知ル、例之胸膜、指ノ動脈ニ於テ甚シキ鼓動ヲ感スルカ如シ、又或ハ心臓機能ノ亢起スルニ由ル者アリ、（余嘗テ驗ス、腦焮衝ニ於テ、顳顬動脈鼓動甚シキ者アリ、）疼痛ノ輕重ハ、患部ノ景况ニ隨フ、其部神經多ク、且ツ其神經感覺鋭敏ナレハ、疼痛極

テ劇シク、之ニ反スルノ部ハ、疼痛輕微ナリ、故ニ焮衝ノ疼痛ハ、諸般ノ因ニテ起ル所ノ患部神經運營ヲ失スルノ多少ニ由ル、輕微ノ刺戟物、大疼痛ヲ發スルアリ、交感シテ焮衝部ヲ壓迫スル者ハ、固ヨリ血液鬱積シテ牽張スルヲ、更ニ増加シ、疼痛ヲ増多ス、然レ𪜈外ヨリ壓迫スルヿ次序アリテ、平等ナレハ、鬱積スル血液ヲ能ク他部ニ輸送スルニ足リテ、底面牢實ナル部ノ焮衝ハ、適宜ニ之ヲ壓迫スレハ、却テ疼痛ヲ緩解スルヿアリ、故ニバルホウル氏、ヘルペアウ氏ハ、其患部ノ位置ニ應シテ、漸次ニ壓迫スルヲ消焮ノ一法トスルノ説ヲ唱フ、

神經ハ疼痛ノ實體ナレハ、其機能ノ盛衰ニ由テ、疼痛亦増減アリ、或ハ時ニ進退ス、其發作スル宵間ニ始マリ、夜半劇度ノ極ニ至リ、曉ニ及テ退クヲ常トス、

四 炎熱

焮衝部ノ炎熱ハ、啻ニ患者自ラ之ヲ感スルノミニ非ス、傍人亦其温度ノ増進スルヲ知ルヘシ、華氏ノ驗温器ニテ測ルニ七度ニ至ル、（恐誤刻、今姑從原文、）温ノ發揮スル温素發生ノ速力亦盛ナリ、

是レ焮衝部ニ觸接スル水液ハ、速ニ蒸散シ、又冷物ハ忽チニ温トナルヲ以テ知ルヘシ、

温度ノ亢起スルヤ、愈遠隔スレ𪜈、愈減少スレハ、能ク周圍ノ部ニ達ス、故ニ之ニ近接スルノ部ハ、外部ヨリハ必ス温ナリ、

炎熱ノ増減ハ、必ス常ニ欝積スル血液ノ進退ニ比準ス、又焮衝部溶崩ニ陷レハ、舍密法ニ隨テ、非常ノ熱度ヲ發スルヿアレ𪜈、是レ他ノ諸症溶崩ヲ兆スル者アルヲ以テ知ルヘシ、

今記スル所ノ所謂焮衝四症ハ、曾テ論スルカ如ク、必見ノ症ニ非ス、別ニ諸般ノ症アリ、或ハ却テ上ノ四症ヨリハ緊要トスルヿアリ、其最ナル者、

焮衝部機能障害、 其部焮衝ニ由テ、甚シク健全ヲ失スレハ、必ス其機能ヲ變ス、而ノ各般ノ別アリ、是レ焮衝部感覺常ヲ失シ、以テ發スルノ交感ニ出ル者ナリ、例之胃焮衝ニ暴吐ヲ發スルカ如シ、腎焮衝ハ嘔吐、睾丸收縮ヲ發シ、膀胱焮衝ハ小便窘迫ヲ發シ、喉頭粘液膜焮衝ハ、痙攣狀聲音ヲ發スル等、皆此類ナリ、又其部ノ機能大ニ障害セラレ、或ハ全ク廢止スルアリ、例之脳焮衝ニ於テ

ハ腦髓麻痺シ、胃焮衝ニ於テハ消化失宜、肺焮衝ニ於テハ聲音嘶啞スルカ如シ、

焮衝血質

亦一大要件ナリ、而メ諸家説ヲ異ニス、或ハ曰ク血上豚肉皮ヲ結フハ、焮衝アルノ確徵ナリト、或ハ之ヲ非ナリトシテ、其正理ヲ説ク、抑モ古人誤ヲ傳テ、遂ニ惑溺スルニ至ルノ原ハ、後件ニアリ、焮衝ノ血液性質ノミヲ見テ、他ノ諸症ト比考スルヿナク、又其諸症中ノ一、即豚肉皮ノミヲ以テ、偏固ニ血質ヲ説ントスルニ由ル、夫レ豚肉皮ハ、血餅ニ分拆シ、其上面ニ結フ所ノ白色纖維質ニ成ルノ膜ニメ、必シモ焮衝ノ確兆ニハ非ス、顯著ナル焮衝ニ於テ、之ヲ生セサル者アリ、ナスセ氏曰ク、豚肉皮ヲ生セサル者、患者四分ノ一ナリ、又之ヲ血萎黄病者ニ於テ、之ヲ見ルヿアリ、又妊娠中、屢刺絡スルノ後、虚性諸病、腐敗熱、水腫、饑餓ノ人、勞瘵ノ末期等ニ之ヲ見ルヿアリ、故ニ必シモ血中纖維質ノ増多ヲ決スルニ足ラス、放出セル血上ニハ、纖維質凝固スルノ前ニ、血體沈降スルノ時間アレハ、則チ豚肉皮ヲ生ス、但シ彼ノ纖維質ノ凝固スルハ、一種ノ變化ヲ得レハ

遲徐ナリ、又血體ハ相引攝凝着スルノ性アルカ故ニ、速カニ沉降シ、又其數大ニ減少スル𪜈ニモ然リ、凡ソ此等ノ際ニハ、凝固セル纖維質ノ上層ニハ、有色ノ血體ナク、或ハ之アルモ極テ少ナシ、是レ黄白色ナル所以ナリ、

レマク氏、ドンデルス氏試驗スル所左ノ如シ、

放血ニ生スル豚肉皮ハ、無色ノ血體、大ニ之ヲ補成スル者ナリ、此體ハ輕キカ故ニ、血體ノ上面ニ浮ヒ、又有色ノ血體ハ重ク〆下面ニ沉降シ、之ヲ上面ニ推ス、而ノ此無色ノ血體ハ、放血スルノ度數ニ隨テ增多シ、甚シキニ至テハ、全血量ノ半ニ及フヿアリ、尚白腫条ニ於テ詳説スヘシ、

ワトソン氏曰ク、蜞針ニテ出セル血ハ、決シテ焮衝皮ヲ生スルヿナシ、吸角ニテ出スノ血ニモ之ヲ生スルヿ少ナリ、是レ親ク自體ニ於テ驗スル所ナリ、然ルニ瀉血スル者ハ、動脈血モ、靜脈血モ同シク之ヲ結フト、

今其豚肉皮ヲ生スル所以ノ理ヲ詳説スルハ要ナシトス、抑モ本文既ニ焮衝ノ正證トハセ

サレハナリ、古人已ニ豚肉皮ニ真假ノ別アルヲ論ス、其真皮ハ厚サ一二歩、硬ク軟革ノ如ク、彈力アリテ、白色帶青、或ハ帶黄、不透明ノ片ナリ、而ノ血餅ニ凝着シ、相集引スルノ力大ナリ、故ニ試ニ其中點ヲ押セハ、周縁亦牽縮ス、又其假皮ト稱スル者ハ、軟ニメ粘滑膠狀ノ片ナリ、彈力ナクメ透明ナリ、諸般ノ色ヲ帶ヒ、中點ヲ押スモ、周縁牽縮スルヿナシ、且ツ血餅ト離レ易シ、此區別ハ纖維質凝收ノ多少ニ由ル所ナリ、假性ノ者ニ於テハ、血ノ沕乙液未タ全ク分拆シ盡サルナリ、故ニ假皮ヲ生スルハ、又以テ虛性病ニ於テ、血中纖維質減少スルヲ證スルニ足ル、

焮衝病者ノ血液ハ、豚肉皮ヲ結フノ性アルノ外、更ニ他性アリテ、以テ焮衝血タルヲ證スヘシ、他性トハ、則チ血ノ異重、凝固スルヿ遲徐纖維質ノ比例多キ、硬ク凝結スル等是ナリ、然レ𪜈焮衝ノ理ヲ說クニ、近世ノ舍密家ノ說ニ據ルトキハ、大ニ異ナル所アリ、纖維質ノ增多スルハ、必見ノ症ナレ𪜈、是レ唯焮衝ノ部廣大、且ツ熱ヲ兼ル者ニ於

テノミ然リ、又固ヨリ多血ナルカ、機能緊要ナルニ由テ、生活保存ニ必須ノ部、例之肺湯乙膜、肝粘液膜等ノ焮衝ハ、血ノ焮衝性ヲ生シ易シ、抑モ全身諸器交感シテ熱ヲ發スルニ非サレハ、能ハサレハナリ、肺焮衝、及ヒ急性僂麻質ニ於テハ、血中纖維質大ニ増加スルナリ、

焮衝ノ局部原因ハ、纖維質ヲ増多スルノ最原ナリトラトウル氏、コリグノン氏刺戟物ヲ用ヒテ强テ胸膜ニ焮衝ヲ生シ、以テ血質ノ變化ヲ試ミタリ、アンドラル氏ノ説ニ據レハ、凡テ焮衝熱ノ初起ハ、血中纖維質増多スルト同時ナリト、而シテ其證ヲ示スニ、僂麻質焮衝熱ノ初期既ニ纖維質増多スルヲ以テス、ヘンレ氏ハ、インニシグ氏ノ説ニ據リテ曰ク、焮衝患者、纖維質ノ増多スルハ、始テ惡寒ヲ發スルトキ、早ク既ニ見ル所ナリ、又妊婦、分娩前ニ、纖維質ノ増多スルハ、焮衝ニモ、熱ニモ、由ルニ非スト、

總テ血液ノ焮衝性ヲ檢査スルハ醫者靜脈ヨリ放出スルノ血ニテハ能ハサル所ニシテ、血液全量ノ變異ヲ察スヘキ者ノミ、患部局所ノ景況ヲ知

ルヘキニ非ス、但レ以テ全身抵抗ノ景況、又貴要部ノ大患タルヲ知ルヘシ、故ニ之ヲ知ルハ、實ニ醫家ノ要務ナリ、

原因相異、部位各別ナルカ故ニ、焮衝ノ兆候、亦一様ナラス、其各部症ハ、各病条下ニ記スヘシ、

焮衝ニ發スル全身症、

夫レ各箇器械ハ、全身ニ相係累スル者ナレハ、一部ニ刺戟アリテ失常スレハ必ス之ヲ他部ニ及ボシ、相感スルヿ、恰モ石ヲ水中ニ投スレハ、全水盡ク波動ヲ生スルヿアルニ同シ、此ノ如ク變異ヲ受クルノ部、又之ヲ他部ニ傳與シ、一ニハ之ヲ原患ノ部ニ反送ス、此抵抗ヲ總稱シテ、全身ノ抵抗ト云ヒ、又續發全身症ト云フ、之ヲ傳搬スル所以ノ媒ハ、血液ナリ、神經ナリ、知覺性神經纖維ノ傳搬力ナリ、

抵抗ノ最モ常ニ發スル症ハ、熱ナリ、而〆其劑度ハ各差等アリ、脈管系ハ全部抵抗ヲ發スレハ、焮衝熱ヲ發ス、抵抗適度ナレハ、微熱ヲ發ス甲症ノ徵ハ、大惡寒、次テ稽留スル炎熱ヲ發シ、脈大實、疾、數、諸排泄乾燥、小便赤色、炎熱ニ〆量少ナシ、諸症

纔カニ減退スルモ、熱勢持久シ、諸症輕微ナレ𪜈、熱ノ苦悶甚シク、或ハ熱勢却テ虛性ヲ顯ハスアリ、則チ脈小ニ〆壓迫、神思欝重、面色滲憺、舌乾燥、下肢冷等ナリ、故ニ真ノ焮衝ニハ、全身抵抗一時虛性症ヲ發スルヿアリ、抵抗ハ熱ヲ發スルノミニ非ス、患部、其人ノ體質、外氣ノ變異、偶然傍來ノ因等ニ由テ同一ノ焮衝ヲ發スヘキ因ニ由ル者モ、諸般ノ交感ヲ為シ、尋常焮衝熱ノ性ト大ニ相異ナル者アリ、

或ハ熱先ツ發シテ後焮衝ヲ生スルアリ、此際ノ焮衝ハ、熱ノ續症ニシテ、熱ノ因ニ非ス、人或ハ此説ヲ非ナリト〆曰ク、内部ノ焮衝ハ、隱伏スル者ナリ、故ニ先ツ熱ヲ發スルト云フハ、臆斷ニ出ツト、實ニ或ハ然ル者アリト雖、悉皆然ルニ非ス、之ヲ實驗ニ徵スルニ、腐敗熱ニ發スル焮衝是ナリ、

抵抗ノ强弱、性情、後件ニ由ル、

一 焮衝部ト、全身トノ關係、

其部、血液循環ニ必須ナルトキハ、例之肺、心ナレハ熱必ス極テ劇シク〆急性ナリ、然レ𪜈肺焮衝ニ

於テ、患部廣大ナレハ、血行支障セラレ、隨テ全身衰弱シ、殊ニ腦ニ於テ盛ナリ、是ニ於テ熱勢虛性トナル、又胃、腸、及腹膜焮衝ハ、屢虛性熱ヲ發ス、又滲出液、膿汁等ノ汚液、血中ニ混和シ、之ヲ敗壞スレハ、其焮衝亦然リ、神經多キ部、又神經ニ須要ナル部、五官、膜質部、腦、ニ於テハ、神經症ヲ發ス、

二體質

多血、強壯、彈力盛ナル人ニ於テハ、抵抗焮衝性ナリ、虛弱ニシテ神經感覺鋭敏ナル人ハ、焮衝ヲ發スレハ諸般ノ交感症ヲ發ス、

三流行病性、地方病性、

是ニ由テ各質ノ人、齊シク彈力強盛、或ハ微弱、又刺衝機增多、或ハ減少シ、抵抗自ラ別アリ、北地、冬時、春時等ニハ、最モ焮衝性ヲ為ス、

四焮衝ノ輕重、大小、又刺戟物ノ全身ニ感スルノ度、

今夫レ交感運動ノ幾何ハ、人身固有ノ良能治力ノ機能ニ起ル者タルヲ説ントス、此疑團ヲ解カントスルニ、其事廣大幽微ニシテ、能ク人智ノ達スル所ニ非ス、故ニ余唯後件ヲ掲ント

ス、夫レ人身各般ノ機能、相合シテ以テ一身ヲ保存セントスルノ一大目的ヲ為スノミ、而メ各部固有ノ機能ハ、其平均ヲ失スルヿアル𪜈ニモ、尚持續スル者ナリ、疾病ノ時ト雖、健康時ニ異ナルノ一別力ヲ發スル者ニ非ス、發スル所ノ抵抗モ、固ヨリ健康時ニ異ナルノ法則アルニ非ス、則チ失常ヲ復治スルノ媒介タルノミ、萬病皆然リ、然レモ或ハ疾病ノ外容ヲ大トナスヿアリ、病時ノ治力ト、平時ノ生力ト、固ヨリ同一力ニシテ、人身固有ノ營養力ナルノミ、

焮衝區域、及廣袤、

各種ノ焮衝ニ區域アリ、又位置アリ、又能ク蔓延シテ他部ニ達ス、

焮衝原因

焮衝ヲ發スルノ部ハ、多クハ刺戟物直チニ觸レ接スルノ一部局ナリ、創傷ノ部、火傷ノ部等、又焮衝ヲ發スルノ刺戟物、一局部ヲ畫セスメ、全身ニ普達スレハ、其最モ焮衝ヲ發シ易キノ部アリテ、之ニ感スルヿ盛ニメ、焮衝ノ部トナル、「其部感覺鋭敏ナルアリ、脈管多キアリ、」之ヲ焮衝シ易キノ部ト稱ス、例之肺ノ下

裂、胃ノ上邊凹ム所、胃底、肝ノ下面、腹膜ノ鼠蹊部ナリ、從來ノ疾病、或ハ變異アルニ由テ、其部大ニ焮衝シ易キ者アリ、結節ヲ生スルノ肝尖ノ如シ、

焮衝ノ區域、大小、自ラ別アリ、

區域ヲ測ルニ、表面ノ大小ニ由リ、或ハ深淺ニ由ル、其部ノ組織相同シキアリ、相異ナルアリ、近接スルアリ、離隔スルアリ、

表面ニ蔓延スルハ、膜質焮衝ナリ、深所ニ達スルハ、巴連舎麻質ノ焮衝ナリ、膜質焮衝ハ、多クハ患部ニ膿狀粘液、膿狀沕乙、凝固性ノ纖維質ヲ滲出ス、其粘液膜ニ發スル者ハ、之ヲ聖京偪性焮衝ト稱ス、又巴連舎麻質ノ焮衝ハ、其質内ニ生シ、海綿體ヲ消滅シ、又其質内ニ浸透シ、腫瘍硬結ヲ生ス、

其組織ト脈管トハ、疾病ノ舎トル所ナリ、而ノ必スシモ、近接ノ部ニノミ交感連及スル者ニ非ス、遠隔ノ部ニ及フヿ多シ、例之腸ノ粘液膜焮衝ハ、呼吸器ニ及ヒ、腹膜焮衝ハ胸膜ニ感スルカ如シ、

但シ焮衝ノ蔓延スルハ、最モ原因ト抵抗トニ因ル所ナリ、

定類焮衝、又敗血焮衝、

凡ソ一身萬機、健全常ヲ得ル所以ハ、之ヲ滋養スルノ血液、健全ナルニ由ルカ故ニ、凡ソ血液ヲ變異スル所以ノ諸病、血液調和疾患、敗血、ハ、必ス細脈管ヲ侵シ、排泄ト滋養トノ兩要機ヲ變異スルナリ、此變異アレハ、局部滋養ヲ失ス形質ヲ變シテ焮衝ヲ生ス、故ニ敗血焮衝、又定類焮衝ト稱スル者ハ、滋養機ノ變ニシテ、必スシモ生力亢起ノ續症ナリト思フヿ勿レ、多クハ急性ニノ、焮衝性諸症ヲ發シ、全身活潑ナル抵抗ヲ起ス、然レ𪜈又此ノ如クナラサル者屢之アリ、例之失苟兒陪苦性焮衝、神經聖京倔性焮衝、腺毒性焮衝是ナリ、定類性焮衝ノ固有ハ、血中膽汁質、或ハ傳染毒ヲ混シ、一種ノ性ヲ具ス、但シ舍密法ヲ以テ之ヲ驗スルモ、其必然ノ性ヲ撿査スルヿ極テ少ナリ、此敗血ハ、各箇ノ器械ニ於テ作用ヲ發現シ、則チ其滋養ヲ變異ス、是ニ於テ腺毒ハ必ス腺焮衝ヲ生シ、痘毒ハ皮膚ニ發見シ、痛風毒ハ關節ニ發ス、唯各自ノ部ノミ其各自ノ毒ヲ感スルニ由ル、夫レ血液各種ノ變性ハ、患部ノ神經ニ各種ノ運營ヲ

起サシメ、次テ生スル所ノ焮衝、或ハ疼痛アルヿナク、或ハ劇甚ノ疼痛ヲ發ス、僂麻質痛、痛風痛、或ハ交感諸症ヲ誘發ス、

定類焮衝、各個固有ノ經過長短一ナラス、全ク解ス可ラサル者アリ、又其終末各〻固有ノ定則アリ、或ハ滲出、硬結、或ハ膿化、或ハ寒壞疽ニ陥ルアリ、而メ其經過ノ期ハ、全ク焮衝ノ性情強弱ヲ以テ預メ知ル可キニ非ス、

血液ノ調和、各個固有ノ異變アル故ニ、各〻相異ナルノ焮衝ヲ生シ、滲出液亦一異性ヲ具シ、膿汁自ラ固有ノ性アリ、黴毒、痘瘡全身疾患ト焮衝ト相合シ、焮衝更ニ急性トナリ、蔓延シ易ク、隨テ焮衝ノ經過ヲ變シ、或ハ急性、或ハ慢性ナリ、

血液調和數般ノ差異アルカ如ク、隨テ焮衝亦數般ノ區別アリ、何トナレハ、血液各種ノ變アレハ、必ス滋養ノ機ヲ一變セシムレハナリ、例之膽汁毒、神經聖京偓、腺毒、黴毒、失苟見陪苦ハ、必ス膽汁性、神經聖京偓性、腺毒性、黴毒性、失苟見陪苦性ノ焮衝ヲ發スルカ如シ、

焮衝ノ本態、

焮衝ノ原基（滋養ノ原基、亦同シ、）ハ神經ナリ、血液ナリ、此兩個ノ機能ニ由テ、則チ焮衝ヲ生ス、焮衝ノ運營ハ、殊ニ其一ニ由テ生ス、

一 神經刺衝、器械性ナルモ、舍密性ナルモ、一部ノ神經ヲ刺戟スレハ、直チニ其部ニノミ、若クハ脈管神經ニ交感シ、細脈管中血液鬱積ヲ生シ、多血、或ハ焮衝ヲ生ス、

二 神經麻痺、殊ニ知覺神經麻痺スレハ、脈管神經須要ノ機能ヲ失シ、血液凝滯シ、多血トナリ、滋養ヲ變ス、故ニ第五對神經ヲ割ケハ、眼焮衝ヲ生シ、膀神經ヲ横斷スレハ脚焮衝ヲ生ス、又手足麻痺スレハ焮衝ヲ生シ、脊髓損傷、又ハ疾患アレハ、腎膀胱焮衝ヲ生ス、神經聖京偪焮衝亦此類ナリ、

三 血液、　血液脈管ヲ閉塞スレハ、則チ多血、又焮衝ヲ生ス、之ヲ試驗スルニハ、靜脈中ニ粘滑液、護謨水、或ハ血體ヨリハ大ナル球ヲ含ムノ馬鈴薯粉漿、水銀、又動物ノ血ヲ注入シテ、以テ焮衝ヲ生スルノ狀態ヲ撿査スヘシ、又疾病ニ由テ、血中凝固性、纖維質、卵白質、增多シ、細管中

ノ循環流利セス、或ハ全ク休止スルニ至ル、

四 又汚敗ノ血液中ニハ、刺戟性アリテ、脉管神經ヲ刺戟シ、以テ焮衝ヲ誘起スルアリ、

焮衝ノ素因ト遠因トヲ説クニ、治療家ノ考フル所ト、解剖家説ク所ト、自ラ別アリ、治療家稱スル所ノ焮衝ハ、生力亢起、抵抗盛ナル者ニテ、固ヨリ多血ナルノ部ニ根據ス、此ノ如キ焮衝ノ素因、左ノ如シ、

一 少壯ノ年齢、男子、

二 多血ニシテ生力抵抗盛ナル人、

三 雰氣ノ變異ニ由テ、生力ヲ亢起スルアリ、其時ノ長短、地ノ廣狹ニ隨テ、流行病性、地方病性ノ別アリ、其最モ顯著ナル者ハ、乾燥冱寒、北風、東北風連吹、高燥ノ地ハ焮衝ヲ發シ易シ、

四 其部ノ機能、平時ニ於テ、固ヨリ既ニ所謂ル焮衝ニ類似スル者、呼吸器ニ於テハ、冬時、春時毎ニ、機能亢起スルナリ、腹部諸臟ハ、夏日ニ機能亢盛スルナリ、間歇發作スルノ諸病、亦此ノ如シ、經行中、妊娠中、產後ハ、子宮諸病ヲ發シ易ク、哺乳時間ハ胸部病ヲ發シ易シ、

滋養失宜ハ、解剖家ニテハ焮衝ノ本性ナリトス、實ニ所謂焮衝ノ部ニ生ス、生力ノ亢起ト相并ス、者ナリ、然レヒ決シテ缺ク可ラサルノ要件ニ非ス、若シ夫レ滋養失宜ヲ以テ、焮衝ノ本性ヲ説クニ足レリトセハ、内外諸因ニ由テ、組織ノ滋養機能ヲ妨クル者アレハ、焮衝性ナキ所ニモ、能ク焮衝ヲ生スヘク、唯刺戟ノ劇シキ者ヲ要スルナルヘシ、

焮衝刺戟ニ器械性、骨質、異物、損傷、腫瘍、關節頭壓迫等、舍密性毒物、酸類、灰鹽、有機性炎熱、寒冷、温度急轉ノ別アリ、又諸部ノ交感機、桔槔機、又交感抵抗ニ由ル、一眼焮衝、他眼ニ及ヒ、耳焮衝、睾丸焮衝、左右相感ス、又病毒轉移敗血、定類毒ニ由テ、各部ニ焮衝ヲ發スルヿアリ、今此諸般ノ法ヲ以テ焮衝區別ノ標的トスルニハ、外因焮衝ト、内因焮衝トヲ別ツヘシ、而メ内因焮衝ニ、桔槔機、交感機、病毒轉移、敗血性ノ別アリ、

凡ソ全身諸部、皆齊シク焮衝ヲ發スル者ニ非ス、一其機能ト部位トニ由テ、焮衝ノ原因ニ接シ易ク、隨テ之ニ感スルヿ多キ者アリ、故ニ外部ニハ

焮衝ヲ發スルヿ多シ、〔二〕血液及ヒ脈管多キ部ハ焮衝ヲ發シ易シ、故ニ今焮衝ヲ發スルノ難易、多少ノ次序ヲ列スレハ、蜂巣體、外部皮膚、粘液膜、沕乙膜、肺、肝、及ヒ他ノ巴連舎麻質ノ内臓、〔其機能ニ隨フ〕次テ諸筋、大脈管、神經、神經膜、最モ稀ナルハ腱、靭帶、軟骨、硬骨ナリ、〔三〕既ニ疾患アルノ部、溶崩ニ陷ルノ部、例之肺結節ノ如シ、〔四〕曾テ焮衝或ハ多血ニ罹レルヿアルノ部ハ最モ焮衝ヲ發シ易シ、

侃斯達篤巻之二　終

侃斯達篤内科書

坪井信良先生譯

初編刻成　二編　三編嗣刻

初編八巻血液病二編三巻神經病三編三十三巻定類病合シテ四十四巻以上第一輯トス四編六十餘巻分テ第二輯第三輯トス通計一百餘巻以テ全局ヲ終フ今毎月二巻ヲ刻ス四年ニシテ全編成功ヲ期スヘシ

夫レ歐羅巴各國諸名哲相競テ各自ノ學術ヲ研究シ皆其秘蘊ヲ尋ヌ而各國自ラ所長アリ醫方解剖ノ學ハ古來日耳曼ヲ以テ超抜無比トス侃斯達篤氏ハ日耳曼都府大醫學校ノ一巨擘ナリ其著書博ク古今諸家ノ説ヲ捜索シ之ヲ斷スルニ自己獨得ノ卓識ヲ以テス論辨詳悉義理通快且ツ近今發明經驗スル所ノ良方奇藥載セサル者ナシ實ニ刀圭家ノ一大寶筏ト云ヘシ學者舊套ヲ脱シテ豁眼ヲ開キ之ヲ熟讀翫味セハ病者ヲ診スルノ際意解黙識スル所アリテ正案一定シテ迷想立ニ消シ處法則チ成リ藥効意ノ如ク運匙輕易自ラ神助アルヲ怪シムニ至ルヘシ四方ノ君子全編成功ノ日ニ於テ西洋醫方ノ真面目ヲ領解セハ則チ濟生ノ術ニ於テ裨益スル所豈ニ僅少ナランヤ

明百原病論

坪井信良先生譯
全四巻近刻

和蘭第二等醫官海軍隊衛生督ポンペフハンメールデルホールト氏嚮ニ招ニ應シテ長崎ニ在留シ生徒ヲ教誨スル日講述スル所ニテ則チ雲垤里弗氏内科書編首ニ掲クル原病總説ヲ抜抄スル者ナリ西洋醫風近三十年來大ニ變革スル者アルヲ知ルヘキ階梯ナリ

新藥百品考

坪井信良先生譯
全一巻近刻

和蘭醫官アツセンブレン子ル氏藥舗某生ノ需ニ應シ其舗所藏ノ新藥類四百九十四ヲ撰ヒ毎品能毒用法等ヲ畧記シ初學ヲシテ某ノ品ハ某ノ効アルヲ領解セシムル為ニスル所譯本全五巻中更ニ其最モ新奇ニ〆應用未タ世ニ詳ナラサル者百品ヲ抄摘スルナリ夫レ三港闢市以來蕃舶相接シテ輻湊シ各々新ヲ呈シ寄ヲ貢ス而〆齎ス所ノ藥品邦人ノ耳目ニ慣サル者往々少ナカラス濟生ノ士大ニ之ヲ遺憾トス今此一書一タヒ世ニ出ル𪜈ハ新奇ノ妙品猶慣手品ニ異ナルヿナク運用意ノ如ク起死囬生庶幾スヘキナリ

江左　老皂舘主人謹識

發閲目録
舶來蕃書類
官版原書類
同翻譯書類

東都竪川三之橋
老皂館　萬屋兵四郎